明治安田生命 二回2発

【和歌山箕島球友会―明治安田生命】二回裏明治安田生命1死一塁、加藤が左越え2点本塁打を放つ＝平川義之撮影

▽第1試合＝1回戦（午前11時4分開始）

和歌山箕島球友会（近畿・和歌山）	1	0	0	1	0	0	1	0	3
明治安田生命（関東・東京）	0	4	1	0	0	0	0	0	X 5

【審判】球審＝堀口　▽塁審＝野口、文珠、永井

頼れる主将 逆転2ラン

ダイヤの輝き

加藤孝紀外野手
「明治安田生命・31歳」

明治安田生命・林裕幸監督　簡単に勝たせてくれず、冷や汗をかいた。二回の加藤、新城の本塁打が大きかった。

明治安田生命が競り勝った。1点を追う二回1死一塁で加藤の左越え2点本塁打で逆転。さらに2死二塁から新城が中越え2点本塁打を放ち、この回一挙4点を挙げた。和歌山箕島球友会は一回に林の中前適時打で先制したが、先発・寺岡の制球が定まらなかった。

和歌山箕島球友会・西川忠宏監督　ビッグイニングを作れるかが企業チームとの差。（3点差の）四回2死二、三塁で代打策失敗が痛かった。

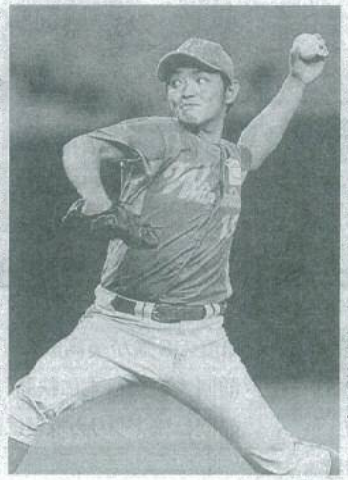
甘く入った初球の変化球を逃さなかった。1点を追う二回1死一塁。「みんなの緊張をほぐすためにも、流れを変える一本を打ちたかった」。迷わず振り抜いた打球は高々と舞い上がり左翼スタンドへ。自身初となる京セラドームでの本塁打は、嫌な流れを振り払うには十分だった。

今夏の都市対抗でNTT東日本に補強され、優勝した。そこで感じたのは、決勝までの5戦を見据えて戦うことの大切さ。補強先の選手たちは試合前日の練習も調整程度で終わらせるのではなく、納得するまでバットを振っていた。それを試してみると、自信を持って試合に臨むことができた。「目の前の試合は通過点として、先々まで考えて体を整えた方が状態が良いと実感した」。決勝では同点本塁打を放った。

チームにとって3大会ぶりの勝利だが、目指してきたのはここではない。初の8強入り、そしてその先へ。10年目の頼れる主将は「この試合が弾みになるはず」と胸を張った。【長田舞子】

箕島球友会 2番手好投

○…三回途中から救援した和歌山箕島球友会の2番手・和田は変化球を軸に打たせて取り、無失点でしのいだ。生命線となったのは「ベースの真上に落とすイメージで投げる」というツーシーム。三振を取れる勝負球にすべく、社会人になって習得した。六回には加藤をツーシーム、大野を直球で連続三振。手応えを感じた一方で「企業チームの打者はファウルボールにも威力がある。経験値を上げて、また挑みたい」と再挑戦を望んだ。



三回途中から登板し無失点でしのいだ和歌山箕島球友会の2番手・和田＝平川義之撮影

箕島球友会	打	安	点
⑨ 夏見	5	3	0
④ 8 岸田	4	1	0
③ D 岸林	3	0	0
⑤ ⑦ 六田井	4	2	1
⑦ 平田	4	1	1
② 水口	3	0	0
⑥ 西下	3	0	1
⑧ 森原	4	1	0
H 榊樫	2	0	0
4 富樫	1	0	0
計	34	8	3

明治安田	打	安	点
⑥ 吉田	4	2	0
⑤ 木田	3	1	0
⑧ 高川	3	0	0
⑨ 増野	2	0	1
⑦ 竹内	4	1	1
D 加藤	3	1	2
③ 大野	4	0	0
R 手銭	0	0	0
③ 島田	3	0	0
② 道端	0	0	0
H 井村	0	0	0
2 森川	0	0	0
④ 新城	4	2	2
計	30	11	5

	振	球	機	盗	失	残	併
箕	12	3	1	3	0	8	2
明	3	4	2	2	1	7	1

投	手	回	安	責
寺	岡	2⅔	5	5
和	田	5⅓	6	0
三	嘗	4	5	2
大久保		5	3	1

▽本塁打　加藤1号②（寺岡）新城1号②（寺岡）▽三塁打　夏見2、西口）、木田▽2時間34分